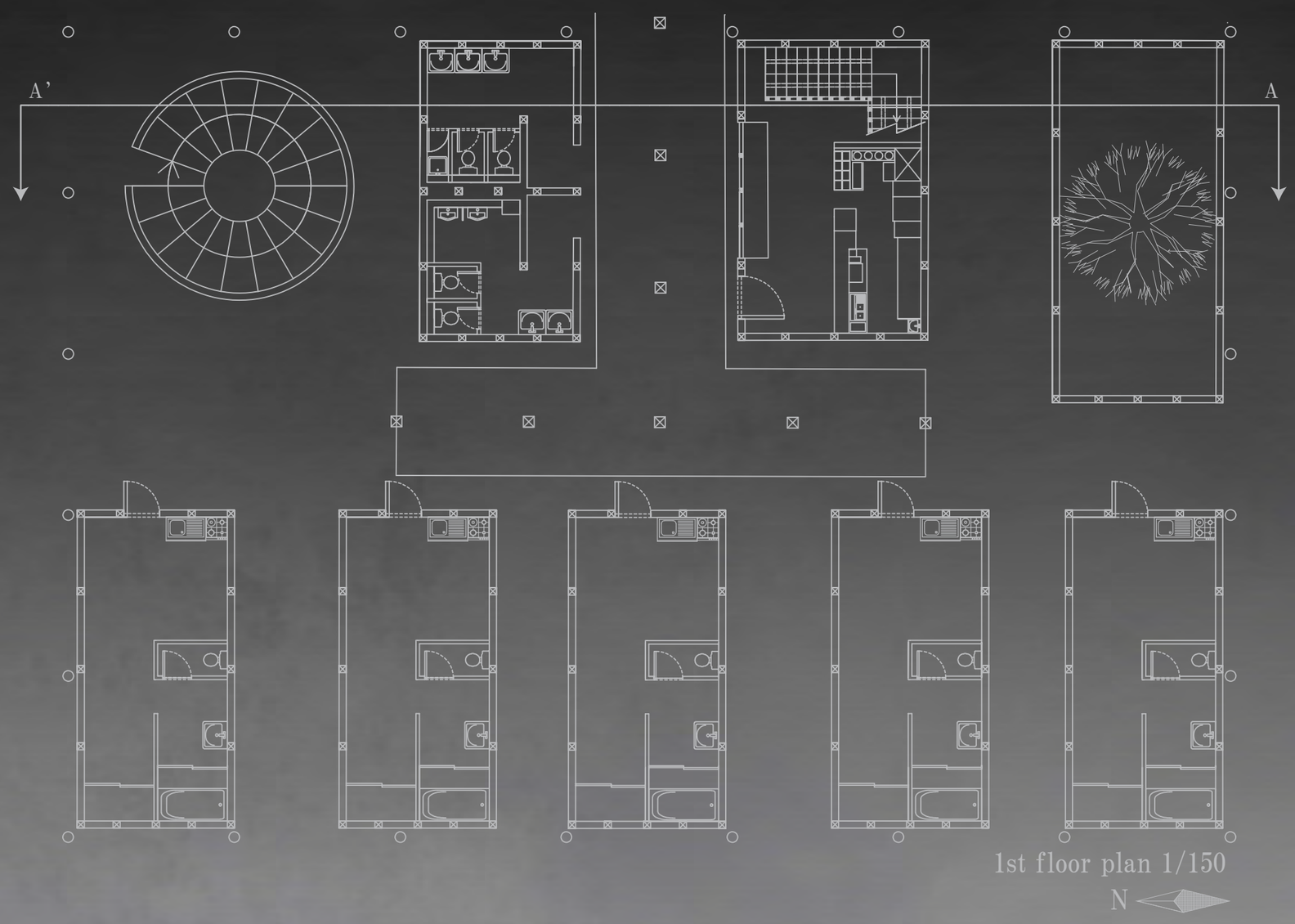


1st floor plan 1/150

世田谷の蓋

地方だけにとどまらず、 東京でも深刻化している空き家問題。
しかし、 都市部の開発の陰に隠れ、 目を向けられていない。
人々はこの問題に無意識に蓋をしている。
そこで我々は、 実際に空き家群に蓋をすることで現状を風刺し、
この事実を建築をもって批判する。
そこに四則演算的手法を用いて、 現状を知り、 未来を考える場の提案を行う。

section A-A' 1/150

N

site,komazawa,setagaya,tokyo　layout diagram

敷地調査①

約築 60 年の本物件らは、老朽化が進んだ空き家群である。
周辺の建物との大きなギャップが感じられる。

敷地調査②

各家の境界に設置されているブロック塀。崩れかけて危険な状態に。
塀と家の間の庭への不法投棄も目立つ。

敷地調査③

生い茂り日光を妨げる大きな樹木が敷地を覆っている。
長い間手入れされず放置されてきたことが窺える。

敷地調査④

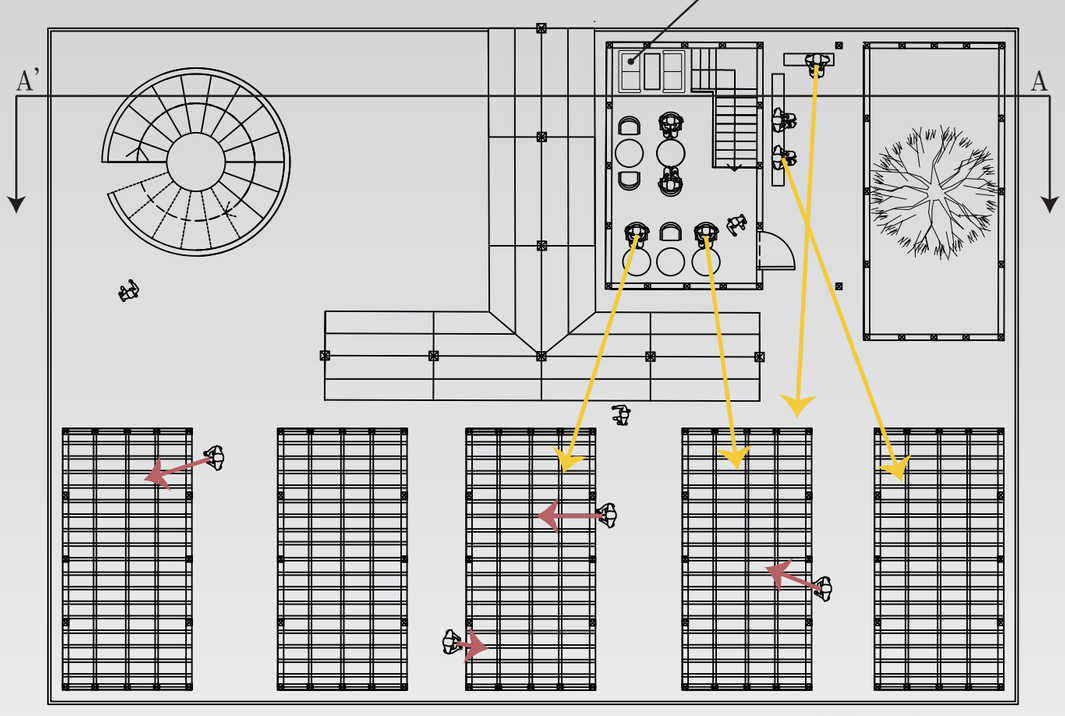
周辺には小学校や大学、公園などがあり、
閑静な住宅街だが人通りは多い。

＋－×÷ とは。

我々は「建築における＋－×÷」を、
建築に対する操作や造形（＋、－）から発生する効果、
そしてそれによって生じる人の現象（×、÷）までを表す途中式と捉えた。

・操作の四則演算

既存の状態　　I、II の操作　　III ～ V の操作



2nd floor plan 1/200

N

Cafe 1st floor interior perspective

I、－の操作

生い茂る樹木と、ブロック塀の排除。

II、＋の操作

２本目の GL を引くように、
空き家群に蓋をする。
その蓋が、屋上の床面となる。

III、＋の操作

唯一の２階建ての空き家をカフェに改修。
１階にあまり席を置かず、
２階のテラスをメインスペースに。

IV、＋の操作

１階と２階をゴールのない
螺旋階段で繋ぐ。
空き家の１つを植木鉢とし、
II で排除した大木の一本を植える。

V、＋の操作

１階西側の５棟の空き家を
手を加えずそのまま残し、
屋根部分を、骨組みだけ残し
２階に露出させる。

・効果の四則演算

I より、× の効果→日が入りオープンな空間へ。（樹木）
× の効果→敷地と周辺とのつながりが生まれる。（塀）

II より、× の効果→2 階に新たな空間が発生。
÷ の効果→1 階の古い空間と、2 階の新しい空間の分割。

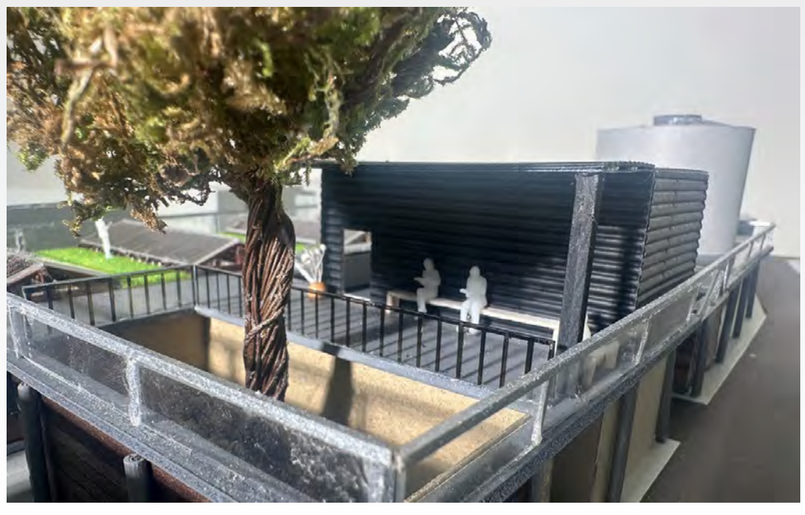
III より、× の効果→カフェが目的地となりこの場所に来る理由になる。
× の効果→1 階と 2 階をつなぎ、2 階への自然な動線を確保。

IV より、× の効果→1 階と二階をつなぐ。
× の効果→螺旋階段と大木が共に時の流れを示す象徴
であるため時間軸を感じさせる。

V より、× の効果→テラスからは空き家の中身は見えず（→ の視線）
近くに行くと中が見える（→ の視線）ことで
興味を沸かせる

・人の現象の四則演算

I ～ V の操作から発生する効果の相乗効果によって
次のような現象が起こる。

I、II より、以前まで空き家だった場所に新たな空間が生まれ、より
オープンな場所になったことでこの地に足を運ぶ。新・旧の空間が
分断されていることで古いものの上に新しいものが建つことを自覚する。
III より、カフェなどの空き家の活用の可能性を見出す。
IV より、新・旧の時の流れを体験しながら感じる。
V より空き家の中身をのぞき、放置され目を向けられてこなかった
空き家の現状を知り、様々な感情を抱く。

この経験が空き家問題の改善につながることを期待する。